

「点呼+」導入事例レポート ユーザーインタビュー

【ユーザー情報】

アキタ株式会社

■本拠/愛知県名古屋市

■事業エリア/全国

■車両数/676台 ※2024年6月

■事業内容/一般貨物自動車運送業
倉庫業



Akita

Tenko IS REBORN.

当たり前の「安全」を永遠に維持するために～点呼システムの再構築と共生～

全国を結ぶ幹線輸送・地域集配にきめ細かく対応。
多彩な車種を揃え、お客様の幅広いご要望にお応えして
最適な輸送サービスを提供いたします。

アキタ株式会社



特別インタビュー

アキタ株式会社 取締役・専務執行役員・事業開発本部長

鈴木 正太郎 氏 SUZUKI SHOTARO

業務後自動点呼の制度化前から点呼＋ロボット版を導入。
その理由や、運用を定着化させるためのポイント、運行管理上の基本姿勢
などについて伺いました。



導入のきっかけ

御社が点呼＋ロボット版を導入された時期は、まだ「業務後自動点呼」が施行されていないタイミングでした。どのような思いで導入に踏み切られたのでしょうか？

鈴木 大きなきっかけとなったのは、コロナ禍でした。

元々弊社では26拠点で対面点呼を行っており、点呼のシステム化は大きな悩み・課題でした。

そんな中、ナブアシスト社の点呼＋ロボット版(unibo)を見て、まずは2拠点へのトライアル導入と言う形で考えていました。

そのタイミングでコロナ禍となり、人件費削減と共に非接触と言うポイントも鑑みて、全拠点への点呼＋ロボット版(unibo)の導入を決定した、と言う訳です。

導入後の効果は非常に大きく、今まで拠点任せだった点呼のやり方、品質などが均一され、行すべき事の抜け・漏れがなくなりました。更にクラウドにデータとして自動的に保存される事が、大きな安心感に繋がりました。

導入当初に多少トラブルはありましたが、サポートセンターの対応も迅速で、安心して使うことが出来ました。

2023年には後継機であるロボット版(Kebbi)へと切替を行い、日々の点呼業務を推進しています。

理想の安全の実現のために

理想の安全を実現される仕組みとして、点呼＋を導入頂きましたが、どの様な部分で安全の実現が出来ているか、お聞かせ頂けますか？

鈴木 点呼業務は「安全」に欠かせない非常に重要な要素です。

全社へ展開した点呼＋ロボット版(Kebbi)により、アキタとして均一化した質の高い点呼業務が実現出来ています。血圧計や体温計とも連携している為、体調管理を含めたデータ取得、そして蓄積出来ている点も、大きな安心感に繋がっています。

実運用においては、基本的な事を全てKebbiで行う事で、より踏み込んだ会話・コミュニケーションが管理者と乗務員との間で行えている実感があります。

更には富士通製クラウド型デジタコ、※1乗務員時計、そして点呼＋の3つのシステムでのデータ連携を行い、そこから生まれる統合されたデータを給与システムと連動する事で、業務効率化・省力化によるコスト削減にも成功しました。

ここから生まれたリソースを更なる安全施策へ投資する事や、社員の皆様への業務負荷軽減へと繋げる事が真の「安全」へと繋がる、と確信しています。

※1.「乗務員時計」は改善基準告示と乗務員の労働時間管理を行うクラウドサービスです。

取材を終えて

アキタ様は、点呼＋ロボット版Kebbiだけではなく、デジタコや労務管理システムなど各システムを連携させ、会社全体のDX化を日々推進されております。

今後のアキタ様の更なる躍進が出来る様、弊社はDXパートナーとして伴走して参ります。
ありがとうございました。

製品・サービスのお問合せはこちら



株式会社ナブアシスト

ロジスティクス事業部 営業部 DX営業課

TEL:027-372-3452

Mail:logistics-dx@nav-assist.co.jp

URL:https://www.nav-assist.co.jp/products/unyu/tenko_plus/